

一般質問(要旨) 「市政のここを問う」

今定例会では、16名の議員が市政全般にわたり一般質問を行いました。要旨は1～2問とし掲載しました。

会議録は5月中旬に市役所情報コーナー及び図書館に配置します。

また、福生市ホームページにも掲載しますので、ぜひご覧ください。

なお、一般質問通告一覧は、福生市議会ホームページに掲載しています。

※録画映像を議員名左横のQRコードよりご覧いただけます。



福生市議会HP
(通告一覧へリンクします)



議員BOOK
(各議員の過去の一般質問や
会議録をご覧いただけます)

令和8年度の市政運営について



正和会
小林 貢 議員



福生市総合計画(第5期)後期基本計画

質問 加藤市長の5期目の市政運営も5月で折り返し地点を迎えるが、令和8年度における重要施策はどのような政策的視点で選定されたのか、その経緯も含めて伺う。

市長 本市では現在、福生市総合計画(第5期)後期基本計画により諸施策を行っているが、少子高齢化

や、急速に進展する社会のデジタル化など社会環境の変化の中、今後も適切な市政運営を行うため、昨年11月に前期基本計画の全20施策について数値的な定量情報と職員の意見や現場で蓄積された知見などの定性情報に基づく分析を行い、取り組みの総括を行った。その結果優先度の高

い「少子高齢化」、「施設の老朽化」、「物価高騰、人件費の上昇」、「外国人住民の増加」の4つの課題に対する取り組みを令和8年度の重要施策として位置付けた。今後も本市の実態に即した施策を着実に推進することで持続可能なまちづくりに資する取り組みを前進させていく。

福生市の観光施策について



正和会
山崎 貴裕 議員



質問 これまでの任意団体であった福生市観光協会を解散し、法人を設立した経緯と今後の展開を伺う。

市長 令和9年3月に福生市観光振興計画を策定予定だが、施策実行の担い手として民間ならではの視点と柔軟な運営に期待し市の支援のもと一般社団法人化した。事務局を設

置し組織強化により地域経済の活性化とシビックプライドの醸成を図る。**社会教育行政における専門資格について**

質問 専門資格を有する職員を活用した社会教育の強化、展望を伺う。

教育長 近年、市民の学習を支援する社会教育や生涯学習の重要性が

高まり、職員はこれまで以上に高度な知識の習得と一層の責任感が必要と考え、社会教育主事、学芸員、司書の資格を有する職員を規則等に位置づけ専門資格発令の準備を進めている。その他、資格取得支援、研修等を通じ職員の意識向上、人材育成を継続して進めていく。

民生委員の成り手不足について



正和会
森田 哲哉 議員



建設が進む片倉跡地

質問 成り手不足の背景について、把握している課題と実情を伺う。

市長 昨年12月の一斉改選で52地区中7地区が欠員状態にあり、ひきこもりや虐待など相談・見守り内容の複雑化や負担感、委員の高齢化、仕事と家庭の両立など難しい点がある。今後も委員の声を伺いながら活

動しやすい環境づくりに努めていく。**片倉跡地について**

質問 都の事業による影響と地元住民の意見の反映方法について伺う。

市長 都では令和13年度に(仮称)西多摩児童相談所を開設予定だが、先行して昭島市の障害者通所施設建て替えに伴う仮設施設を開設予定。

児童相談所の開設は本市の児童福祉行政における相談支援事業の強化に資する一方、都の事業が市内で展開され地域に影響が生じる可能性もある。「都知事との意見交換」の場で住民との十分な対話や熊川分水の保全への配慮、地域に開かれた施設運営を要望しており、引き続き求めていく。

福祉バスの増設に伴う成果と市民要望の把握について



正和会
仲間 正司 議員



現在運行している福祉バスの路線図

質問 路線増設から2年が経過。成果と市民要望の把握について伺う。

市長 増設に合わせ1便の運行時間を60分から70分に変更したことで安定して定刻運行ができるようになった。たなばた号に牛浜駅東口等新規バス停を設置し交通空白地域の解消や、10か所のバス停で乗換えを可

能にし、利便性の向上に努めた。市民要望の把握は、社会福祉協議会や運行委託事業者と定期的に情報交換して課題の解消に努めている。**雇用対策について**

質問 本市の持続的発展には実効性のある雇用対策が必要ではないか。

市長 これまで創業への相談支援、

利子補給等を行う中小企業振興資金融資制度、ハローワークや商工会との連携等、幅広い雇用対策を展開している。一方、共働き世帯や外国人労働者の増加、働き方の多様化、終身雇用の崩壊など雇用に関する課題も急増しており、これらに引き合い、引き続き雇用の促進に努める。

フロントヤード改革について



正和会
清水 義朋 議員



窓口受付時間短縮を知らせる掲示物

質問 窓口業務等のDX化、フロントヤード改革について市の具体的な取組内容と方向性について伺う。

市長 フロントヤードとは行政と市民とのあらゆる接点を指し、市民の負担軽減の観点から、書かない、待たない、迷わない、行かないの4つを目指すべき姿とするもので、本

市では令和8年2月に総合窓口課においてデジタルツールの活用による、書かない、待たない取り組みとして申請書の作成を支援するシステムと、マイナンバーカード手続の予約制を導入した。合わせて、総合窓口課において窓口の受付時間を試行的に短縮し様々な課題の解消に向けた検証

を始めている。今後の方向性としては、2月に実施した窓口利用者への実態調査、総合窓口課における受付時間短縮の取組状況などを踏まえ、本年10月を目途に庁内の検討組織で、全庁的な窓口の受付時間や時間外開庁の最適化について検証を行いたいと考えている。